

1. 教育研究の目的・構成・取組み

1.1 建学綱領

(1) 教育理念

国際高等専門学校（以下、本校）は、金沢工業大学園が定める建学綱領に基づき、学生、理事、教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする工学アカデミアを形成し、三大建学綱領の具現化を目的とする卓越した教育と研究の実践を通し社会に貢献します。

【三大建学綱領】

高邁な人間形成：我が国の文化を探求し、高い道徳心と広い国際感覚を有する創造的で個性豊かな技術者を育成します。

深遠な技術革新：我が国の技術革新に寄与するとともに、将来の科学技術振興に柔軟に対応する技術者を育成します。

雄大な産学協同：我が国の産業界が求めるテーマを積極的に追究し、広く開かれた学園として地域社会に貢献します。

(2) 本学園の建学精神

本学園の建学の精神は、本学園の母体である北陸電波学校初代理事長故嵯峨保二氏の高邁な建学の理念を継承し、これを具現することにあります。その精神を一言にして要約すれば、全人類の普遍原理たる人間主義の哲学であります。

この建学の精神は、本学園の創設以来、学園の向上発展に鋭意邁進された創設理事泉屋利吉氏によって真摯に継承され、且つ、本学園が法人名を学校法人金沢工業大学と改称し、日本の最高学府たる高等教育機関として躍進するにあたり、建学の綱領を「人間形成」「技術革新」「産学協同」と定め、これを三大旗標として掲げたのであります。

それは、日本人としての誇りと確固たる精神を矜持し、国際社会に寄与し得る人材、次代の技術革新を担い得る人材、そして人類の豊かな発展を継承し得る人材の育成と産学一体の学術探究とを目指すものであります。

従って、本学園の理事、教職員並びに学生は、日本国民の師表たる決意をもって、自己の人間形成に努め、相互に切磋琢磨を行ない、全学が和衷協同の理念に徹し、そして日本文化の進歩と世界平和の建設に貢献することこそ建学の精神具現への道であることを深く銘記しなければなりません。

1.2 教育目的・目標

(1) 教育目的

本校および各学科における教育目的は次のとおりです。

(平成29年度以前入学生適用、以下、国際高等専門学校学則より)

国際高等専門学校学則 「第1章 目的及び使命 第1条」 抜粋

国際高等専門学校（以下「本校」という。）は、学校法人金沢工業大学建学綱領に定める建学の精神に則り、教育基本法及び学校教育法に従い、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、その目的を実現するため教育を行ない、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを使命とする。

国際高等専門学校学則 「第3章 組織及び定員 第6条、第6条の2」 抜粋

本校に次の学科を置く。

電気電子工学科

機械工学科

グローバル情報学科

1. 電気電子工学科は、電気・電子工学及び情報技術分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。
2. 機械工学科は、機械工学分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。
3. グローバル情報学科は、情報技術に関する専門的能力と経営の知識を有し、グローバル社会においてイノベーション創出に貢献できる技術者の養成を目的とする。

(平成30年度以降入学生適用)

国際高等専門学校学則 「第1章 目的及び使命 第1条」 抜粋

国際高等専門学校（以下「本校」という。）は、学校法人金沢工業大学建学綱領に定める建学の精神に則り、教育基本法及び学校教育法に従い、理学・工学の幅広い学芸を教授し、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた創造的・実践的技術者の養成を目的とする。

国際高等専門学校学則 「第3章 組織及び定員 第6条、第6条の2」 抜粋

第6条 本校に次の学科を置く。

国際理工学科

- 2 学科は、教育上有益と認められるときには、適切なコースの学級を編成することができる。
- 3 前項に規定するコースの取り扱いについては、別に定める。

第6条の2 国際理工学科は、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた創造的・実践的技術者の養成を目的とする。

- 2 コースの人材養成目的は、別に定める。

(2) 教育目標

本校では、教育の根本は「人間形成」にあるという考えのもと、本校の教育は、エンジニアであると同時に個人あるいは社会人としての義務と責任を理解・実行でき、他の模範となる自主・自立型の卒業生を育成するとし、その教育目標を「個を輝かせ、他と協働し、新たな価値を創出するグローバルイノベーターの育成」と定め、この教育目標を達成するために、次の実践目標を掲げています。

【教育目標】

「個を輝かせ、他と協働し、新たな価値を創出するグローバルイノベーターの育成」

【国際高専 2020Vision】

本校は、教育改革の完成年となる2020年（平成32年）に国際高専がどう在るべきか、果たすべき役割は何かなどについて意見を出し合い、平成26年4月1日、進むべき方向と行動の指針として次の5つを柱とする「国際高専 2020Vision」を掲げました。

1. 学生個々の「人間形成」を第一義とする
2. イノベーションを起こす人材の卵を育てる
3. グローバル人材の育成
4. 金沢高専・金沢工大・大学院の進学コースの再構築
5. 魅力ある学校づくり

国際高専 2020Vision は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/2020vision/> で紹介しています。

1.3 高専の構成

◆ 国際理工学科

（平成30年4月1日増設。これに伴い、電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科の学生募集を停止。）

◆ 電気電子工学科

◆ 機械工学科

◆ グローバル情報学科

（平成27年4月1日設置。これに伴い、グローバル情報工学科の学生募集を停止。）

(1) 入学定員及び収容定員

入学定員は、国際理工学科90名で、平成30年度の収容定員は表1-1のとおりです。

表 1-1 平成30年度入学定員及び収容定員

学科名	入学定員	収容定員
国際理工学科(1～5年次)	90	90
電気電子工学科(2～5年次)	-	160
機械工学科(2～5年次)	-	160
グローバル情報学科(2～4年次)	-	120
グローバル情報工学科(5年次)	-	40
合計	90	570

単位：人

1.4 三つの方針について**(1) 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）**

本校では次のような行動ができる人を求めている。①しっかりと基礎学力を持ち、科学技術やデザイン（課題の発見・解決）、イノベーション（新しい価値の創造）に興味を持つ人、②グローバル社会での活

躍に強い関心と探究心を持ち、英語でのコミュニケーション能力を高めようとする人、③主体的に社会や地域に貢献する意欲を持ち、且つ行動する人

入学試験では、推薦・一般入試以外に、多様な学生を募集するために留学生や帰国子女を対象とする入学試験を実施する。すべての入学試験にて、主体性や協調性、高い向上心を持つ学生を選抜するために個人面接を行う。選考にあたっては、学力試験、出願書類及び面接により多面的・総合的に評価する。

(2) 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

「個を輝かせ、他と協働し、新たな価値を創出するグローバルイノベーターの育成」を教育目標に、下記を特色とするCDIOイニシアチブの理念をカリキュラムに織り込み、学生の主体的な体験を重視するカリキュラムを編成する。また、また、学修成果の評価については、成果物や試験以外に、活動プロセスや協働状況を評価するために学修ポートフォリオを活用する。

- (1) 課題発見・解決力を高める。
- (2) 科学的思考力、コミュニケーション能力を鍛える。
- (3) よりよい社会づくりに積極的に参画する態度を養う。
- (4) グローバルに活躍できる英語力を培う。
- (5) 異なる文化や、多様な価値観を持つ人々と協働する力を身につける。

(3) 卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）

国際理工学科は、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた実践的・創造的技術者の養成を目的とする教育実践により、準学士（工学）と称するに相応しい学力と人間性を備え、且つ、第5学年の課程を修了した者に対し卒業を認定します。

電気電子工学科は、電気・電子工学及び情報技術分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする教育実践により、準学士（工学）と称するに相応しい学力と人間性を備え、且つ、第5学年の課程を修了した者に対し卒業を認定します。

機械工学科は、機械工学分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする教育実践により、準学士（工学）と称するに相応しい学力と人間性を備え、且つ、第5学年の課程を修了した者に対し卒業を認定します。

グローバル情報学科は、情報分野の専門知識と技術、ビジネスに関する知識、並びにグローバル社会に対応できる英語でのコミュニケーション力を有する実践的技術者の養成を目的とする教育実践により、準学士（工学）と称するに相応しい学力と人間性を備え、且つ、第5学年の課程を修了した者に対し卒業を認定します。

グローバル情報工学科は、情報技術分野に関する専門的能力及び英語による国際的なコミュニケーション能力を有する実践的技術者の養成を目的とする教育実践により、準学士（工学）と称するに相応しい学力と人間性を備え、且つ、第5学年の課程を修了した者に対し卒業を認定します。